

製品開発・筐体設計・教室・会議室・舞台
装置・デジタルサイネージ・からくり装
置、その他多くの設計。

ものづくりからシステム設計まで、全ての
案件は、しっかりした「設計」から始まります。

OS NEWS

編集・発行：株式会社オーエス マーケティング課

2018年11月12日発行

お客様へのお役立ち情報、
トピック等をお知らせする
情報誌をお届けいたします。OSnewsのバックナ
ンバーはオーエス Web サイトでご覧いただけます。

NO.17

OSnewsNO.6では技術部の紹介をいたしました。

今回は、技術部の中の設計課のご紹介です。

オーエスグループの設計陣は、誠意を持ってお応えいたします。

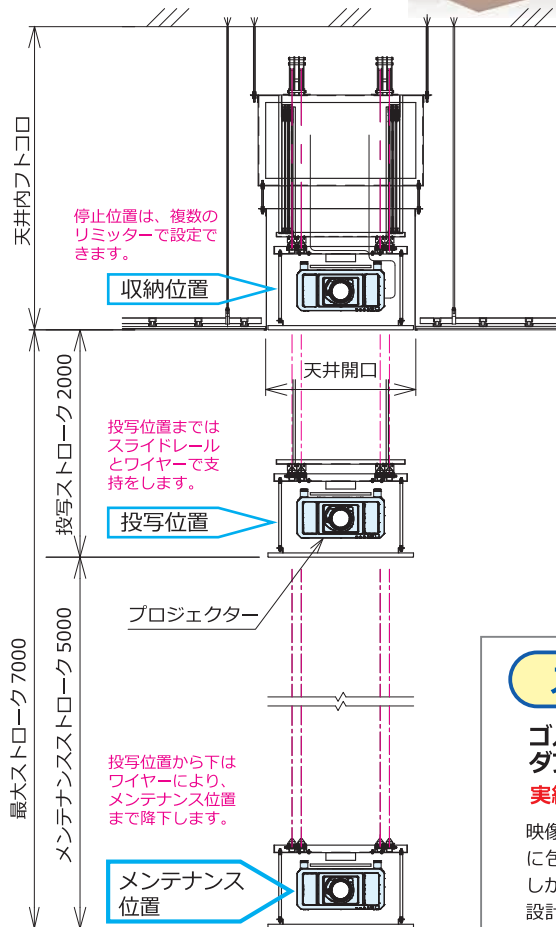
施工事例

ここに挙げた事例は設計の仕事のごく一例です。これからお取引の案件には、きっとオーエスの設計がお役に立ちます。

高天井用大型プロジェクター昇降機

高天井に吊った大型プロジェクター。
安全に、確実にメンテナンスをするため
メンテナンスの位置まで本体を降ろす
仕様のオリジナル設計の昇降装置です。

写真：
プロジェクター昇降機
イメージ



サイネージ・筐体設計

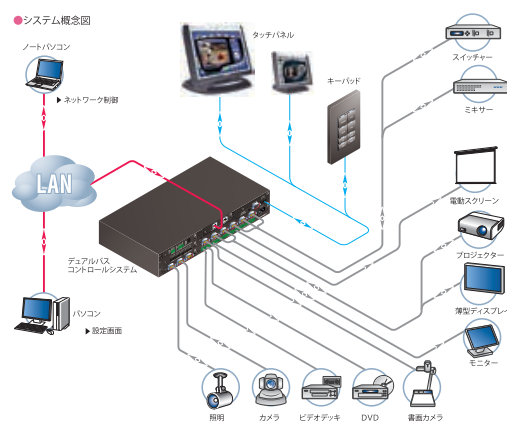
サイネージの環境が整ってくるのに従い、筐体設計の案件が増加しています。スタンドアロン
から、マルチディスプレイまで、
また屋内・屋外それぞれの条件
と環境をふまえ、オリジナルデ
ザインをご提案しています。

右写真
デザインコンセプト：親子目線
に対応 / 縦横のコンテンツに
対応した4面マルチサイネージ。



AVシステム

各種機器及びコントローラーの
構築をします。洗練されたタッチ
パネルデザインなどユーザー
インターフェースもお任せくだ
さい。

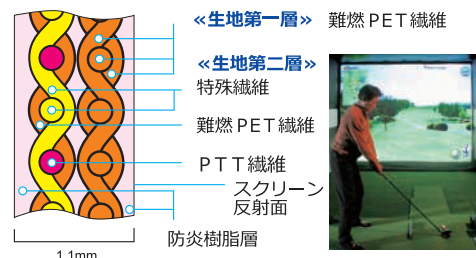


スクリーン幕面設計

ゴルフシミュレータ用スクリーン
ダブルチャージ組織

実績紹介

映像をきれいに写し、ボールの衝撃を柔らか
に包み、ボールがティーまで戻らない低反発。
しかも凹みも修復する特殊なスクリーンの
設計は、オーエスエムの特異な製品開発です。



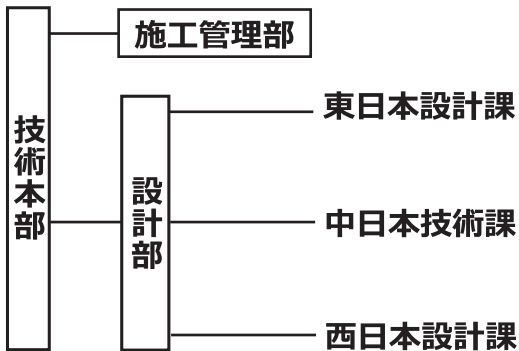
安全・環境への配慮

設計を取り巻く関連法規や規制、使用するユーザー。RoHS (RoHS2) やフォースターなどの環境物質関連から、騒音規制・環境への配慮、PSE・耐震強度・IP規格など安全に係る項目。さらにコストや生産性・耐久性など、設計をする上での要件は多種多様です。オーエスグループの設計陣は、それらの条件をつぶさにチェック。施工に関わるメンバーとの情報交換を重ね、お客様へ最適の商品を納品できるよう努めています。

オーエスグループの設計チーム

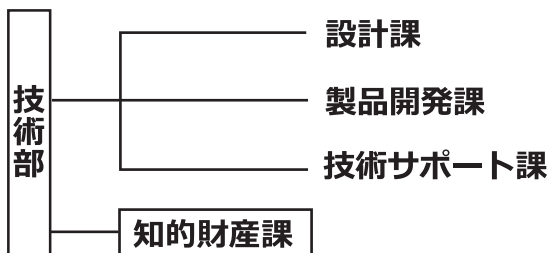
オーエスグループの各社の設計チームには、それぞれの立場の特長を生かした得意分野があります。

株式会社オーエス



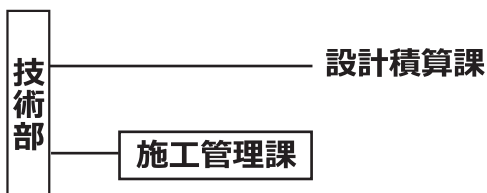
- ・マイスターを目指す「筐体」「機構」の専任化を軸に、オールラウンダーを従え、システム設計から、単純な図面対応まで幅広く行います。
- ・オーエス総合カタログにはない製品（例えば大型プロジェクター昇降機）の設計などは、オーエスの設計陣が担当します。
- ・筐体設計には屋内外ともに、環境と使用シーンに配慮した設計を進めています。
- ・公共スペースのマルチディスプレイから大型 LED のサイネージ。それらを組み合わせた管理システム。会議室の AV コントロールシステム。ショーコントロールシステム。テレビ会議システムなどのシステム設計もお任せください。
- ・建築ご担当者様とのジョイントも、安心してご用命いただけます。

株式会社オーエスエム



- ・株式会社オーエスエムは、オーエスグループのマザーファクトリー。全ての新製品開発と、その改良等のブラッシュアップに長けているのがオーエスエムの技術チームです。
- ・規格品をベースにした特注対応はお任せください。
- ・スタンドの転倒角をはじめ、RoHS2 や PSE 他の安全基準、環境基準・各種法令を遵守した製品設計をしています。

株式会社オーエスビー沖縄



- ・オーエスビーにおけるグループ会社設計チームの強みは、黒板やホワイトボードの設計・学校設備の設計です。
- ・建築工事業、大工工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、内装仕上工事業、機械器具設置工事業の免許を持ち、製品設計から施工図・承認図までの幅広い設計を行います。

株式会社オーエスは二〇一八年、創立六十五周年を迎え、更に新しい歴史を刻もうとしています。代表 奥村正之が歩みを振り返ります。

「けんこんいつてき」で何が語られるか、お楽しみにください。

関係取引先との融通手形の内容を確認すると、この会社が更に循環取引も行っていたことが発覚した。循環取引には関係取引先2社（仮にA社・B社）が関わっていたことが判明。なんと循環取引と融通手形で売上高、利益の水増しと資金の捻出を行っていたのです。具体的には、この会社が架空仕入の支払い代金としてA社に何某かの金額で支払手形を振り出し、A社が同様にB社に振り出し、B社もまた同様にこの会社に振り出し、B社からの振出手形を金融機関に割引手形として持ち込み、資金を捻出していったのです。

このような事実が発覚したことで、この会社を吸収するところではなくなり、いかに債務保証をはずすかが問題であるとわかりました。

裏書で債務保証をした手形は金融機関への支払期日が入っているのです。その期日前に新しい手形に書き換えて、借り換えを行う。この借り換えのタイミングにあわせて、この会社は一時的に別に回している資金で一旦期日に（先代）社長の裏書した手形を決済し、新たな裏書保証手形で借り入れを行う予定でした。この一瞬のタイミングで裏書をやめてしまうのが得策と考え、結果的に何とか裏書をせずにうまく切り抜けたのです。

もちろんその後、この会社はしばらく維持したものの、最後は倒産。

その後の状況は不明です。これらの状況に直面したとき、金融機関が追いかけたのは、（前号に書きましたように）入院している社長ではなく、経理担当の奥様でもなく、契約社員かアルバイトのような雇用形態の専務という肩書きの番頭さんでもなく、何も知らされていなかったであろうただの営業課長の肩書きをもつ直系の息子さんだったのです。この状況が今までの私の考え方を一変しました。

もし当社（オーエス）に何かが起こった場合には、社長の直系で長男の私が責任を問われることになる。どうせ責任を負うなら、自身が考えていること、思っていることをしっかりと主張し、また実行していく方がよいと考え方を変えたのです。

このような考えに至った私は、以後当社内で主張をはじめ、これ以降さまざまな問題が振りかかってくることになるのです。

（続く）

乾坤一擲

017

代表
奥村正之

記載内容に関するお問い合わせは、弊社担当者あるいはコンタクトセンターまでお願いいたします。